

昭和59年(1984年) 5月25日(金曜日)

世界日報 The Sekai Nippo

日韓大事業に結集を

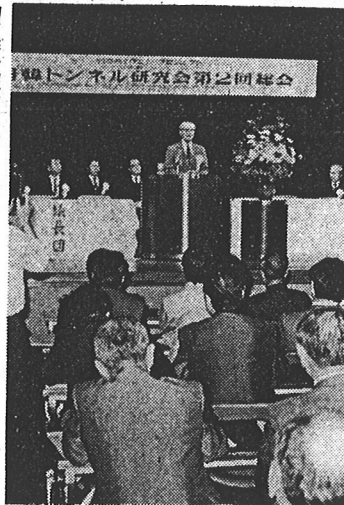
日韓トンネル
研究会 第2回総会が開催

わが国と韓国を海底トンネルで結ぶという「日韓トンネル」構想実現のため、調査・研究を進めている「国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会」(会長・佐々保雄北海道大学名誉教授)の第2回総会が二

十四日、東京・神宮外苑の日本青年館ホールで、会員ら関係者約五百人が参加して開かれた。

総会では同会常任理事の中山学一橋大学教授の司会で行われ、まず佐々会長が主眼一年間の活

「国際ハイウェイプロジェクト・日韓トンネル研究会」第2回総会で記念講演する西堀栄三郎氏(24日、神宮外苑の日本青年館ホールで)



動内容を報告、「国際的に最も難しい関係にある日韓両国を結ぶという事業だから、大勢の人の協力が必要だ」とあいさつ。

また、国際ハイウェイ建設事業団の梶栗玄太郎理事長(世界日報社長)も「このプロジェクトは困難な問題が多く、反対が

つきもの。みなさまのご協力を願って、さらに発展させたい」と国民の協力を呼びかけた。

ついで、山田伴次郎前宇都宮大学学長が議長に選出され、五十八年度会務全般報告、収支決算報告及び各部会報告が行われ

た。最後に、日本生産性本部理事の西堀栄三郎氏が「巨大プロ

ジェクトのとりくみ方」と題して記念講演し、「ロマンをもって問題を克服するところに人類の進歩がある。矢はずでに放たれた。あとほんじたら成功するかもしれない時である」と、参加者の決意をうながした。

日韓トンネル構想は、一九八一年、韓国・ソウルで開かれた国際文化財団主催の「科学の統一に関する国際会議」の席上、

同財団創設者の文鮮明師が「人類一家族という理想を実現すること」を目的に、「日本・韓国・中国を連結し、中国本土、

南アジア、中近東を通過してシベリア及び欧州に至る」という国際ハイウェイ構想の一環として現

現準備が進められている。